

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

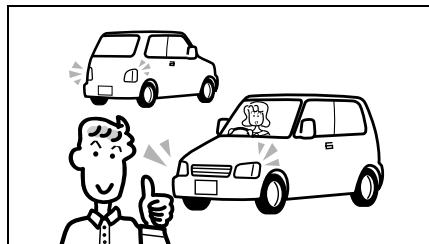
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認）	2-2
荷物を積むときは	2-4
お子さまを乗せるときは	2-5
運転席に座って	2-9
エンジンをかけるときは	2-10
走行するときは	2-11
駐車するときは	2-16
給油するときは	2-19
オートマチック車を運転するときは	2-20
SRSエアバッグ車を運転するときは	2-22
4WD車を運転するときは	2-24
ターボ車を運転するときは	2-24
こんなことにも注意して	2-25
エコドライブをしましょう	2-29

出発の前に（お車の確認）

日常点検を確実に

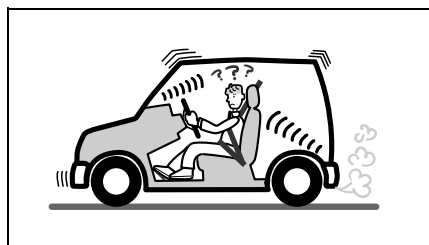


64L20180

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。

→ メンテナンスノート（日常点検）

こんな症状に気づいたときは



80J009

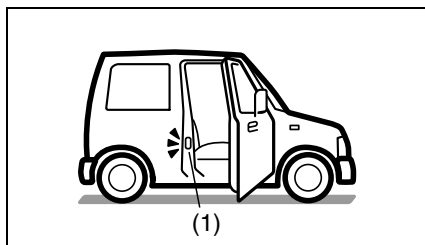
▲ 注意

次のような場合は日産販売会社で点検を受けてください。

- 地面に油や液の漏れたあとが残っている
- ブレーキ液が不足している
- いつもと違うにおい、音、振動がある
- ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。
この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「空気圧ラベル」（1）で確認できます。
→ メンテナンスノート（日常点検）



64L20010

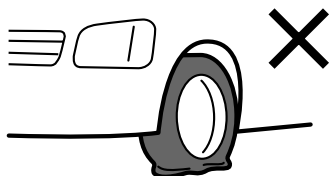
- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。
- タイヤ空気圧警告システム装備車の場合、空気圧の調整後にタイヤ空気圧警告システムの初期設定を行ってください。また、空気圧が大幅に低下するとメーター内のタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

→ 4-27ページ

（タイヤ空気圧警告システム）

⚠ 警告

空気が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。



72J20040

⚠ 注意

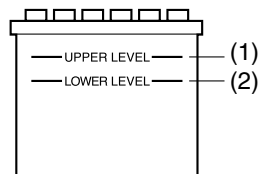
指定空気を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

- 走行安定性が悪化する
- ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる
- ABS やタイヤ空気圧警告システム（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって正常に作動しなくなる
- 4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる

バッテリーの液面を点検する

液面が下限（2）より下にあるときは、バッテリー補充液を上限（1）まで補給してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

→ メンテナンスノート（日常点検）



80J1267

⚠ 警告

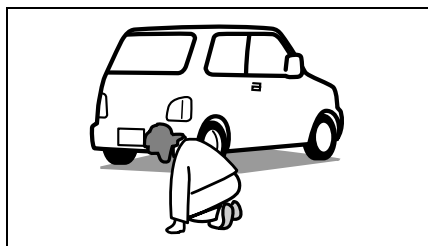
バッテリー液が不足すると、発熱や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

アイドリングストップ装備車は、非装備車に比べて高性能な専用のバッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないとアイドリングストップが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。（状況によっては、停車直前の減速時にエンジンが自動再始動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったりハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります）

- バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）
→ 8-2ページ（サービスデータ）
- バッテリー端子から直接電気製品の電源をとらない

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、日産販売会社で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積み過ぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

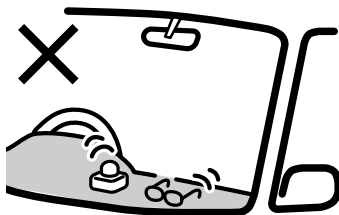
警告

- 燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。



80J021

- インパネの上に物を置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、助手席SRSエアバッグがふくらんだときにとばされたりして、けがのおそれがあります。



80J070

注意

- 車内に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



80J022

- 動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる



51K0188

できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。

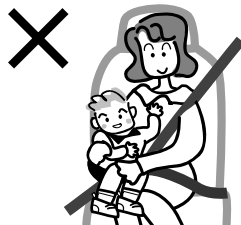
⚠ 警告

- 後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドセーフティドアロックをご使用ください。
→ 3-8 ページ (チャイルドセーフティドアロック)
- やむをえず助手席に乗せるときは、助手席をいちばん後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃でお子さまがけがをします。

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

- ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J081

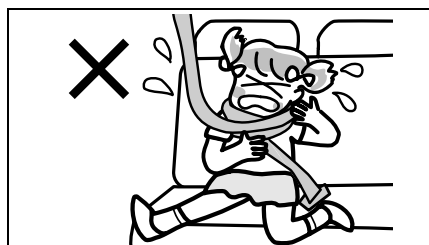
- 必ずシートベルトを着用させてください。
- 一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
- シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアチャイルドシートをご使用ください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J082

- 首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、乳児用チャイルドシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない



80J028

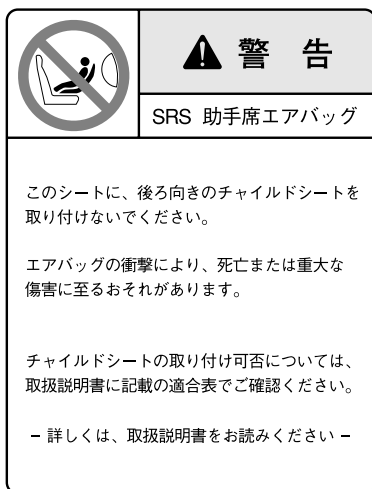
⚠ 警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

- 次のようなお子さま用シートは、助手席で使用することができません。
 - ・ 乳児用チャイルドシートなど後ろ向きしか使用できないお子さま用シート
 - ・ ジュニアチャイルドシート
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
→ **3-47ページ（お子さま用シートの選択について）**

- 助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。



85K20020

※警告ラベルで使用される「チャイルドシート」は、本書で使用される「お子さま用シート」のことを表します。

- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
 - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
→ **3-45 ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
 - ISOFIXタイプのお子さま用シート
→ **3-34 ページ（ISOFIX 対応チャイルドシート 固定専用金具）**
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。

- お子さま用シートには、日産純正品をお勧めします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- お子さま用シートを使用しているも、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにし、安全運転に心がけてください。

⚠ 警告

- 助手席には、乳児用チャイルドシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けしないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げ、前向きに取り付けてください。



80J027

- 走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどが無いことを確認してください。
- お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んで、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠ 注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物にあたるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。



80J029

⚠ 警告

パワーウインドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。
→ 3-20ページ
(ウインドーロックスイッチ)

窓から顔や手を出さない



80J030

！ 警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外の物などにあたって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

！ 警告

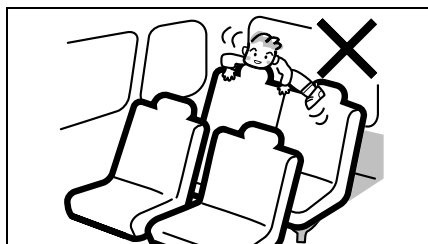
車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



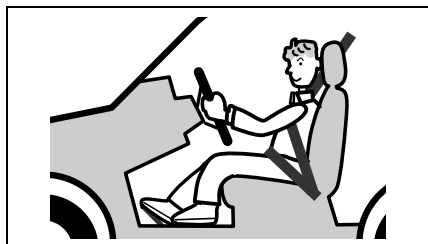
80J031

⚠ 警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

運転席に座って

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に

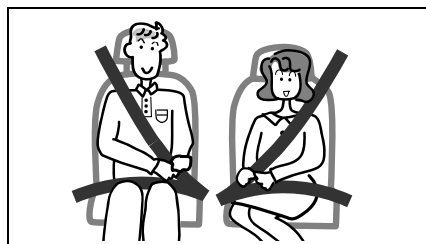


80J014

⚠ 警告

- 走行中にハンドルの調節（タイプ別装備）やシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 3-25ページ
(チルトステアリング)
 - 3-26ページ (前席シート)
 - 3-23ページ
(ルームミラー、ドアミラー)
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

シートベルトは正しく着用

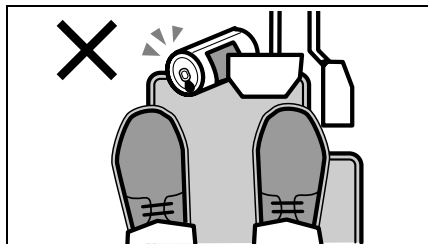


51K0007

⚠ 警告

- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。
- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。
 - 3-39ページ (シートベルト)

運転席の足元付近に物を置かない

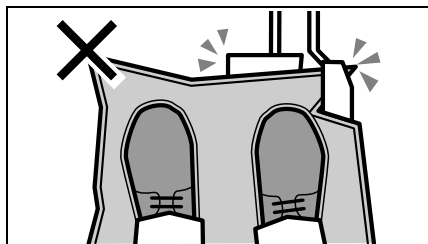


64L20030

⚠ 警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアカーペットを適切に使用する



64L20040

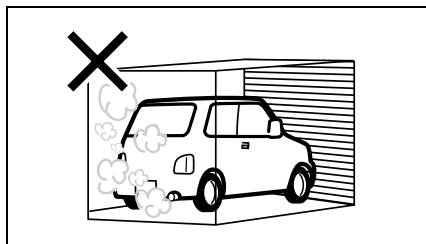
⚠ 警告

この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

→ 5-71 ページ（フロアカーペット（タイプ別装備））

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない

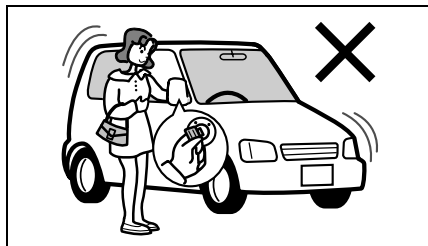


80J010

⚠ 警告

- 車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。
- 車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

窓越しのエンジン始動は しない



運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

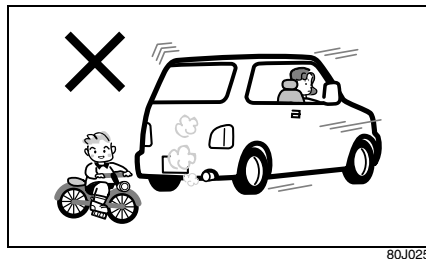
⚠ 警告

窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 4-8ページ(エンジンのかけかた)

走行するときは

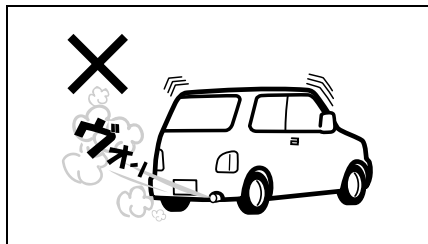
周囲をよく確認してから発進する



⚠ 注意

- 周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。
- バックミラーやバックビューモニター（タイプ別装備）だけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車からおりて自分の目で後方を確認してください。

エンジン始動直後の空ぶかし、急加速をしない



注 記

エンジンが暖まっていないので、暖機が完了するまでは空ぶかしや急加速をしないでください。エンジン故障の原因となります。

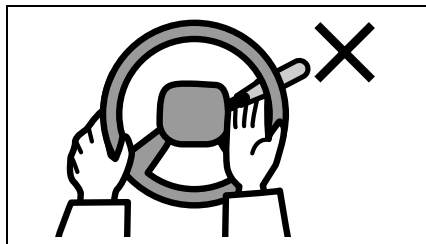
携帯電話やカーナビゲーションなどに気を取られないで



！ 警告

- 運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを使用しないでください。会話や電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は、走行中にテレビを見たり、カーナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



！ 警告

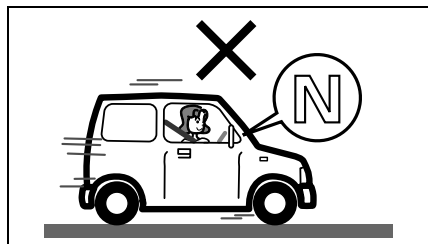
ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

▲ 注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

走行中はニュートラルにしない



80J035

▲ 注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを **N** (ニュートラル) にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

こんなときどうする？

● 警告灯が点灯したら？

ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。

→ 3-65ページ

(警告灯・表示灯の見かた)

● 床下に強い衝撃を受けたら？

ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、日産販売会社にご連絡ください。

● タイヤが突然パンクしたら？

ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。

→ 7-2ページ (パンク)

● ブレーキペダルが重く感じたら？

車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じるがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

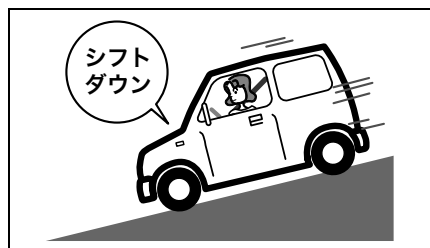
長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度に合わせて、次のようにします。

- S（スポーツ）モードスイッチを ON にするか、セレクトレバーを **L** にシフトダウンします。

→ 4-15ページ

（セレクトレバーの操作）

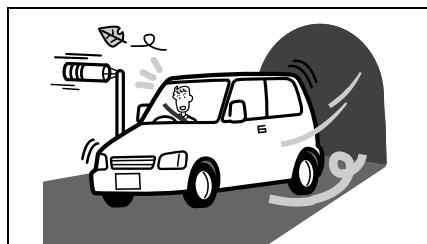
※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。



⚠ 警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

横風が強いときは



トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

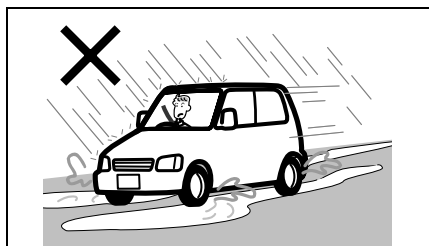
滑りやすい路面ではゆっくり走る



⚠ 注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

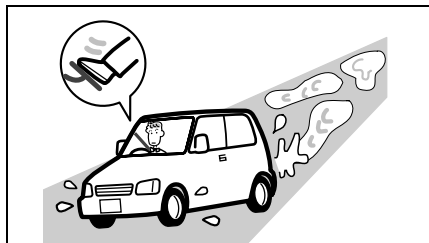


72J20350

▲ 注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



72J20360

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。

- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない



80J042

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

注 記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

スタック(立ち往生)したときは

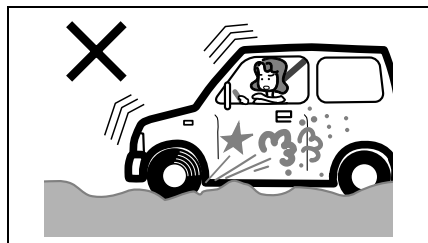
- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - セレクトレバーを確実にに入れてからアクセルを軽く踏んでください。
 - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。

⚠ 警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

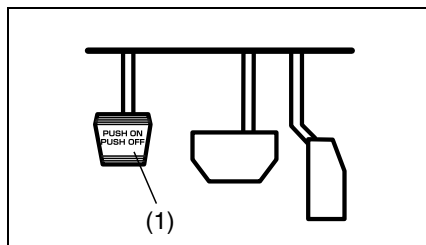
タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



80J043

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて



82K003

(1) パーキングブレーキ

- セレクトレバーを **[P]** に入れてください。
- 坂道で駐車するときは、次のことをお守りください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、車が動き出さないことを確認してください。
- 2 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠ 警告

急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

▲ 注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない



72J20400

▲ 警告

- 周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。

燃えやすい物の近くに駐車しない

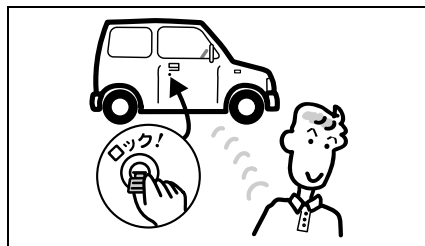


80J046

▲ 警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



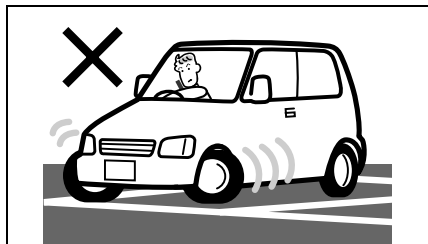
80J046

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

▲ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない



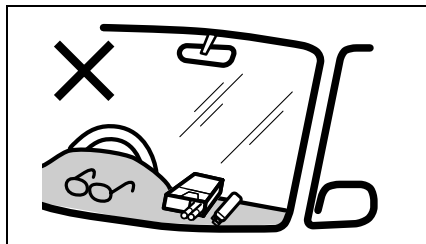
注 記

駐車するときや車庫入れのとき、ハンドルをいっぱいにまわして力をかけた状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が損傷する原因となります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



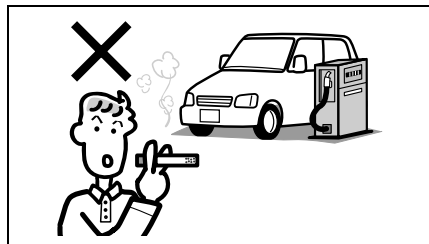
⚠ 警告

- 炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。
- 操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。

給油するときは

→ 5-54ページ（燃料給油口）

火気に気をつけて



80J020

⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。

- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠ 警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。

また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。

- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ挿入してください。給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。
- 給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしないでください。継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

（※）



80J1005

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示に従ってください。

⚠ 警告

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- その他、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他の燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を 運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。4-15ページの「オートマチック車」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

クリーブ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリーブ現象といいます。

⚠ 注意

- セレクトレバーを **P** **N** 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリーブ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

♪ アドバイス

CVT車もクリーブ現象があります。

R (リバース) ポジション 警告ブザー

セレクトレバーを **R** に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが **R** に入っていることを運転者に知らせます。

♪アドバイス

R (リバース) ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

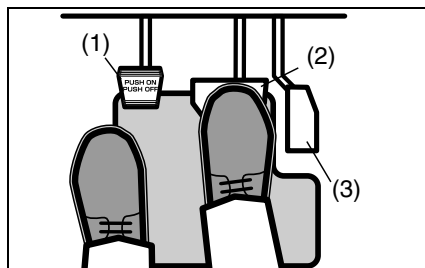
ペダルの踏み間違いに注意

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



82K004

- (1) パーキングブレーキ
- (2) ブレーキペダル
- (3) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するとき

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **R** に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに **R** から **N** に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

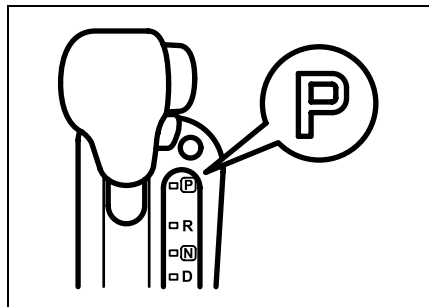
⚠警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は **[P]**、前進時は **[D]**、後退時は **[R]** にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



82K311

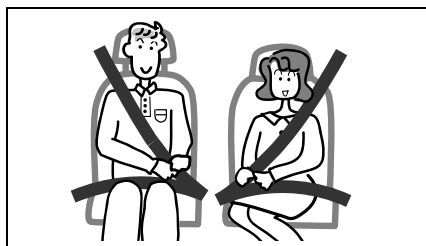
⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが **[P]** 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-52 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



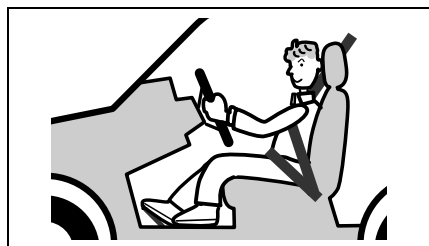
51K0007

⚠ 警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。

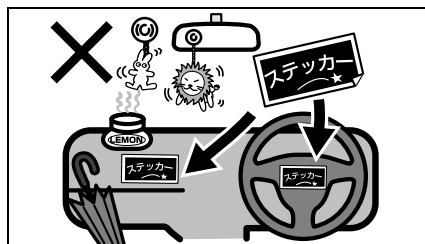


80J014

⚠ 警告

ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために



66K20540

⚠ 警告

- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。
- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。
- フロントガラスやルームミラーにアクセサリ（日産純正用品を除く）などを取り付けしないでください。

お子さま用シートの取付け

- 2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）
- 3-47 ページ（お子さま用シートの選択について）

4WD車を運転するときは

4WD車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

▲ 注意

4WD車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- 砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。
- 渡河走行や水中走行をしないでください。



80J042

ターボ車を運転するときは

ターボ車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

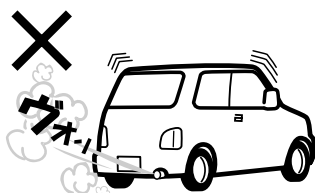
ターボとは

エンジンに多量の空気を送り込んで、より大きな馬力を引き出す精密装置です。ターボ装置には高温で超高速回転する羽根が取り付けられており、その軸受け部をエンジンオイルで潤滑・冷却しています。

注 記

ターボ装置の潤滑や冷却を適切に行なうために、次のことをお守りください。守らないと、ターボ軸受部の固着や異音の原因となります。

- エンジン始動直後などのエンジンが暖まっていないときは、空ぶかしや急加速をしないでください。

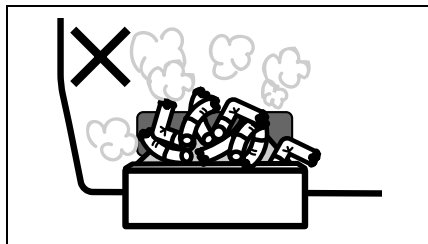


82K006

- 高速走行、登坂走行直後は、すぐにエンジンを止めないでください。高速走行直後は約1分、登坂走行直後は約2分のアイドリング運転をしてターボ装置を冷やしてから、エンジンを止めてください。
- エンジンオイル、オイルフィルターは定期的に交換してください。
→ 2-28 ページ（エンジンオイルを交換するときは）

こんなことにも注意して

マッチ、タバコの火は確実に消す



80J067

⚠ 警告

- マッチ、タバコの火は確実に消し、吸いがらを入れた灰皿（別売り）は完全に閉めてください。
- 灰皿（別売り）の中に吸いがらをため過ぎたり、紙など燃えやすい物を入れたりしないでください。

外装部品に力をかけすぎない

注 記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

2

段差などに注意して

注 記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

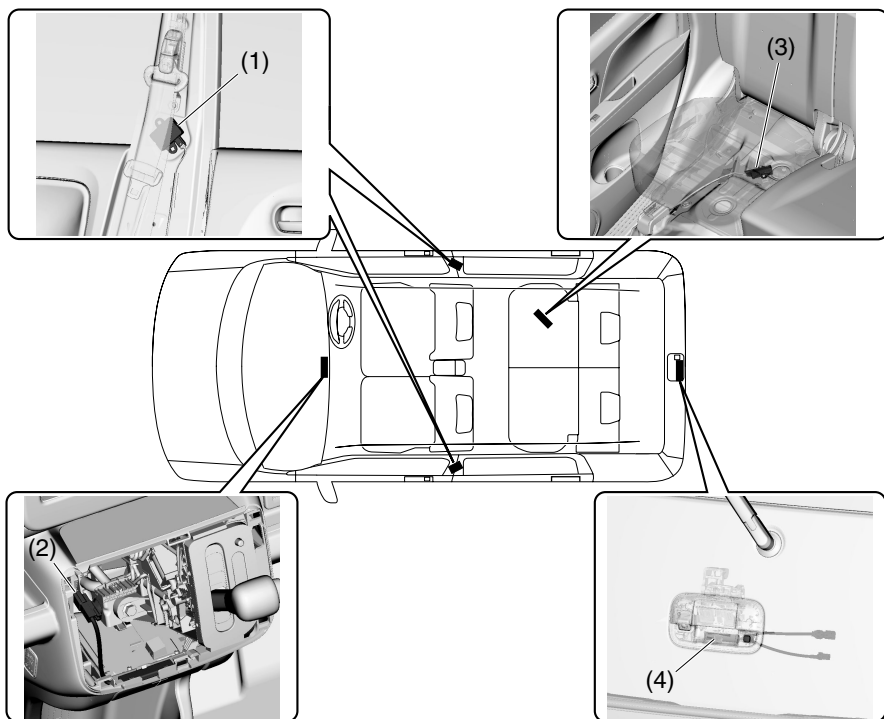
- 路肩など段差がある場所への乗り入れ
- わだちやくぼみなどがある道路の走行

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

プッシュエンジンスターター装備車

警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、プッシュエンジンスターター装備車の各発信機（下図参照）から約22cm以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、プッシュエンジンスターター装備車の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。
- 詳しくは、日産販売会社にお問い合わせください。

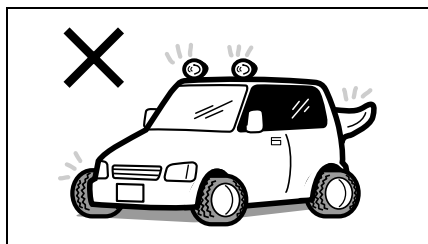


50M2035

- (1) 前席ドア車外発信機（※イラストは運転席ドア側）
(2) 車室内発信機

- (3) 荷室発信機
(4) バックドア車外発信機

不正改造はしない



64L20170

⚠ 警告

- この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、不正改造になったりすることがあります。
- 無線機、オーディオ、ETC 車載器などの電気製品の取付け、取外しをするときは、日産販売会社にご相談ください。また、バッテリー端子から直接電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品の働きをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールナットは指定の日産純正品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

部品の取付け、取外し、修理をするときは

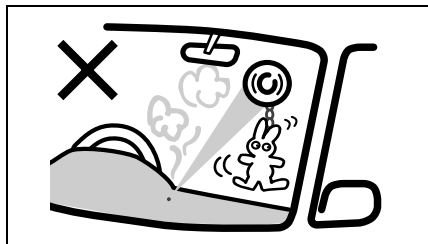
⚠ 警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。

次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前に日産販売会社にご相談ください。

- ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、前席シート下の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席シートの交換およびシートまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取付けに気をつけて



80J069

⚠ 警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けしないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーがとんでけがのおそれがあります。

エンジンオイルを交換するとき

■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは **10,000km**（ターボ車は **5,000km**）ごと、または**6か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**10,000km**ごとに交換してください。
- 指定のエンジンオイルを使ってください。
→ **8-1ページ（サービスデータ）**
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
→ **メンテナンスノート**

注 記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、日産販売会社へお申し付けください。

■ エンジンオイルの規格／粘度

次の表に従って適切なものを使ってください。

	API規格 (※1)	SAE粘度 (※2)
ターボなし車	SM	5W-30 0W-20
ターボ車	SM	5W-30

※1 API 規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格で、エンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 SAE 粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。左側の数字（Wの付く数字）は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強くエンジンの保護性能に優れています。

♪ アドバイス

0W-20は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。（ターボなし車）

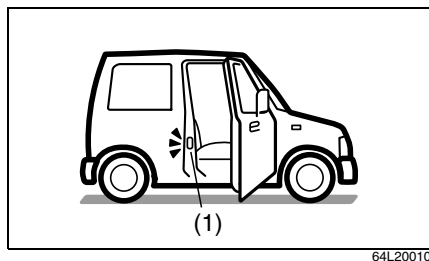
エコドライブをしましょう

→ 3-74ページ

(ECOインジケーター)

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」(1)で確認のうえ、調整してください。



不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

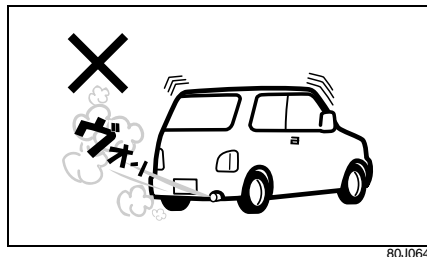
暖機運転は適切に

長期間、車を使用しなかったときや極低温のときは、数十秒の暖機運転を行ってから走行を開始してください。それ以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したら、すみやかに走行を開始してください。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



空ぶかしをしない



燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。